

モミジニタイケアブラムシ

春にカエデ類やトチノキの若枝や新葉に群生するアブラムシ（幼虫や成虫）。最大長約3mm。体は焦げ茶色。多発すると枝ののびが悪くなり、すす病を併発するので、木が汚れるといわれている。道内での被害実態は不明。



1. 幼虫と成虫，体長1～2mm。2000/6/12.

北見市の庭のイタヤカエデ。

排泄物をアリがなめに来ている。

【学名】 *Periphyllus californiensis*

【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) ， アブラムシ科 (Aphididae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；北半球およびオーストラリアに広く分布。

【生態】

宿主：カエデ属（イロハモミジ，ハウチワカエデ，イタヤカエデ，クロビイタヤなど），トチノキ。

卵越冬。春，新芽に群生，吸汁加害する。夏は特異な形状の1齢幼虫で葉裏で休眠する。この幼虫は秋になると加害，成長を始める。晩秋に成虫となって冬芽の付け根に産卵する。

【被害】

本州では害虫とされる。北海道では被害記録はないが，庭のカエデに普通にみられる。

【文献】

1977. 奥野孝夫，田中寛，木村裕. 原色樹木病害虫図鑑. 保育社，大阪. (形態，生態，防除の解説)

1983. 森津孫四郎. 日本原色アブラムシ図鑑. 全国農村教育協会，東京. (形態，生態の解説)

1994. 小林富士雄，竹谷昭彦，編. 森林昆虫，総論・各論. 養賢堂，東京. (形態，生態，被害，防除の解説)

モミジニタイケアブラムシ abura/momijini/

kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/2/8.

musi.JPG

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2000.